

太子町老人福祉計画（第10次）及び第9期介護保険事業計画 策定のための実態調査結果報告（概要版）

I 調査概要

1. 調査の目的

太子町老人福祉計画（第10次）及び第9期介護保険事業計画（令和6年度から令和8年度）を策定するにあたり、高齢者等の生活状況や健康状態、地域の課題やニーズ等を的確に把握し、介護や福祉などの事業の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査概要

（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

- 調査対象：要介護認定を受けていない65歳以上の町民及び要支援1・2の認定を受けている65歳以上の町民から無作為抽出 1,400人
- 調査方法：郵送配布－郵送回収
- 調査期間：令和5年1月16日（月）～令和5年2月6日（月）
- 有効回収数：1,061件（有効回収率：75.8%）

（2）在宅介護実態調査

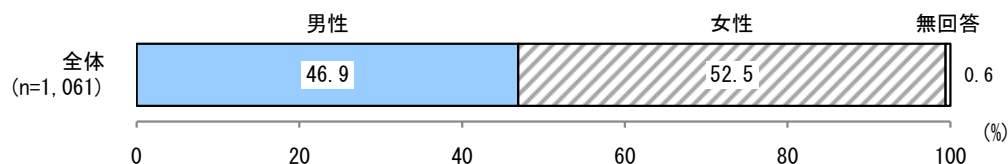
- 調査対象：要支援・要介護認定を受けている65歳以上の町民から無作為抽出 600人
- 調査方法：郵送配布－郵送回収
- 調査期間：令和5年1月16日（月）～令和5年2月6日（月）
- 有効回収数：376件（有効回収率：62.7%）

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二ズ調査

1. 回答者の基本属性

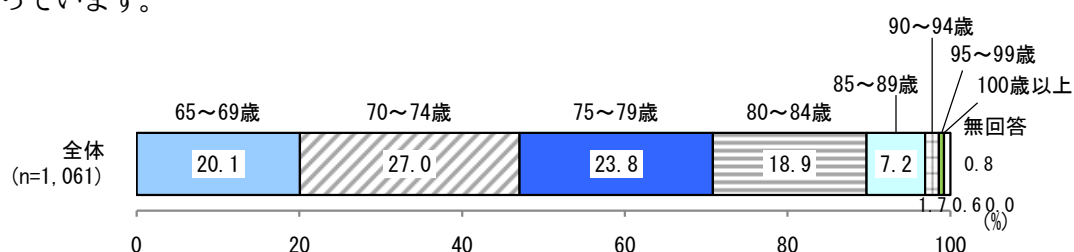
(1) 性別

性別は、「男性」が46.9%、「女性」が52.5%となっています。



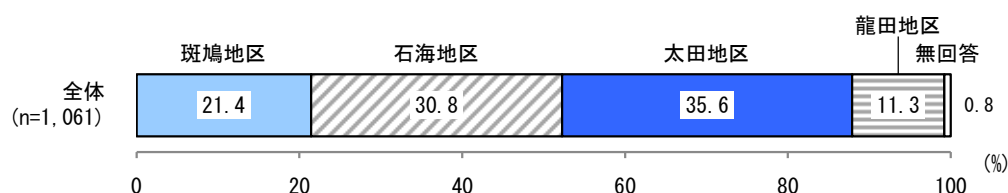
(2) 年齢

年齢は、「70～74歳」が27.0%で最も多く、次いで「75～79歳」が23.8%、「65～69歳」が20.1%となっています。



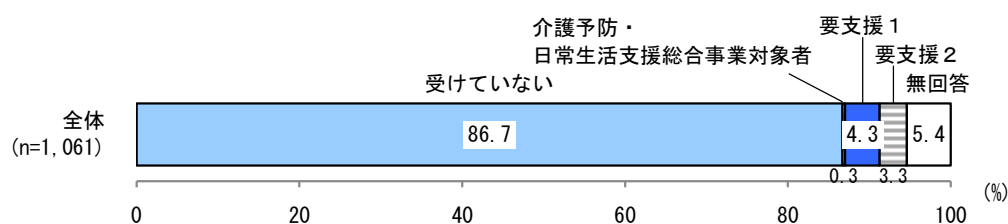
(3) 居住地区

居住地区は、「太田地区」が35.6%で最も多く、次いで「石海地区」が30.8%、「斑鳩地区」が21.4%、「龍田地区」が11.3%となっています。



(4) 要介護（要支援）認定等の状況

要介護（要支援）認定等の状況については、「受けていない」が86.7%で最も多く、次いで「要支援1」が4.3%、「要支援2」が3.3%となっています。



2. 身体状況について

(1) 運動器の機能低下リスク

運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で18.2%となっています。

性・年齢別でみると、すべての年代で女性が男性より高い割合になっており、85歳以上で男女とも約5割を占めています。

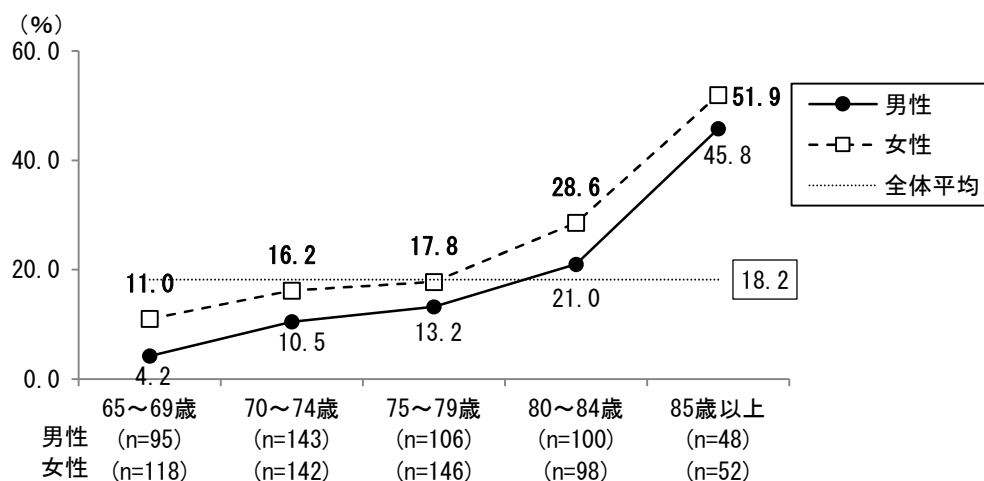


表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

（5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問2-1①	階段を手すりや壁をつたわずにあがっていますか	「できない」
問2-1②	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できない」
問2-1③	15分位続けて歩いていますか	「できない」
問2-2	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」 「1度ある」
問2-3	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」 「やや不安である」

(2) 閉じこもり傾向のリスク

閉じこもり傾向の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で11.3%となっています。

性・年齢別でみると、79歳以下までは、男女に大きな差異はみられませんが、80歳以降になると女性は男性より約10ポイント高くなっています。

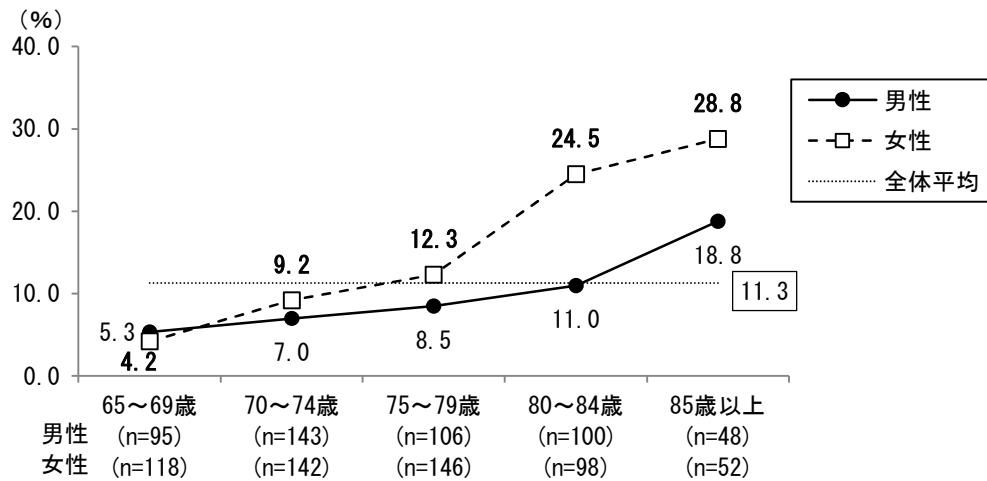


表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

（2問中2問とも該当した場合に閉じこもり傾向の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問3-1	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」 「週1回」
問3-2	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「とても減っている」 「減っている」

(3) 低栄養傾向のリスク

低栄養傾向の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で1.6%となっています。

性・年齢別でみると、男女ともに1%に満たない年代もみられますが、女性の80歳以降、男性の85歳以上では3%を超えています。

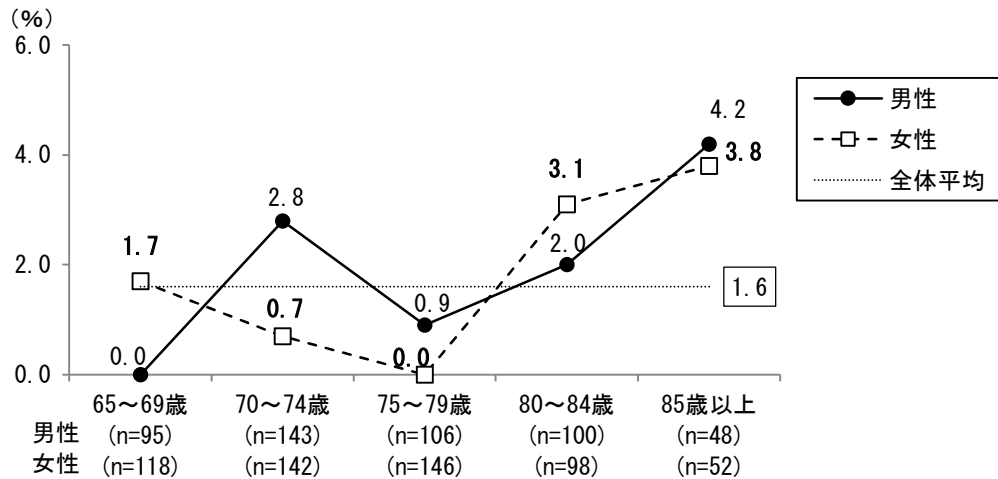


表 低栄養傾向に関する設問（基本チェックリスト）

（2問中2問とも該当した場合に低栄養傾向の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問4-1	身長・体重 BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))	18.5未満
問4-5	この6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「はい」

(4) 口腔機能低下のリスク

口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で25.8%となっています。

性・年齢別でみると、84歳以下までは、男女に大きな差はみられませんが、85歳以上になると、女性は男性より8.7ポイント高くなっています。

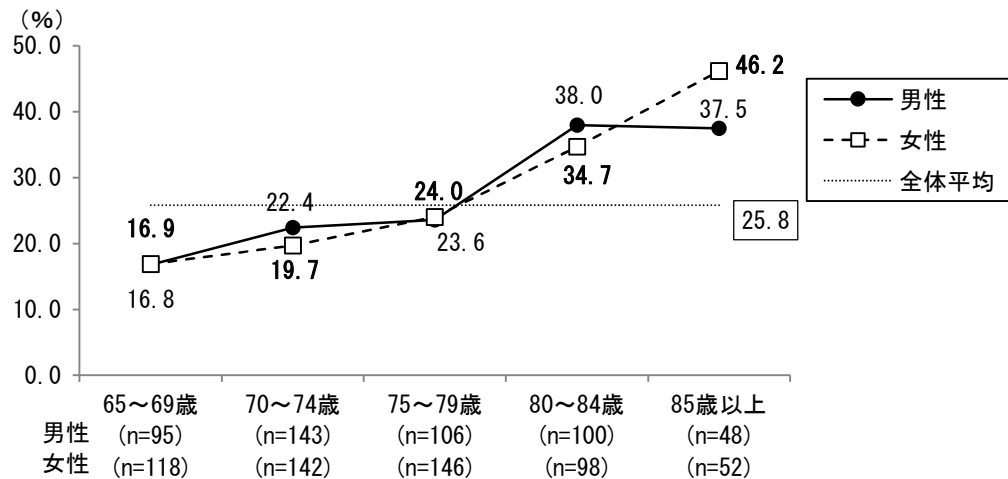


表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

（3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問4-2①	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」
問4-2②	お茶や汁物等でむせることがありますか	「はい」
問4-2③	口の渇きが気になりますか	「はい」

(5) 認知機能低下のリスク

認知機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で60.2%となっています。

性・年齢別でみると、いずれの年代も女性より男性のほうが高くなっており、男性は75歳以降で、女性は80歳以降で6割を超えています。

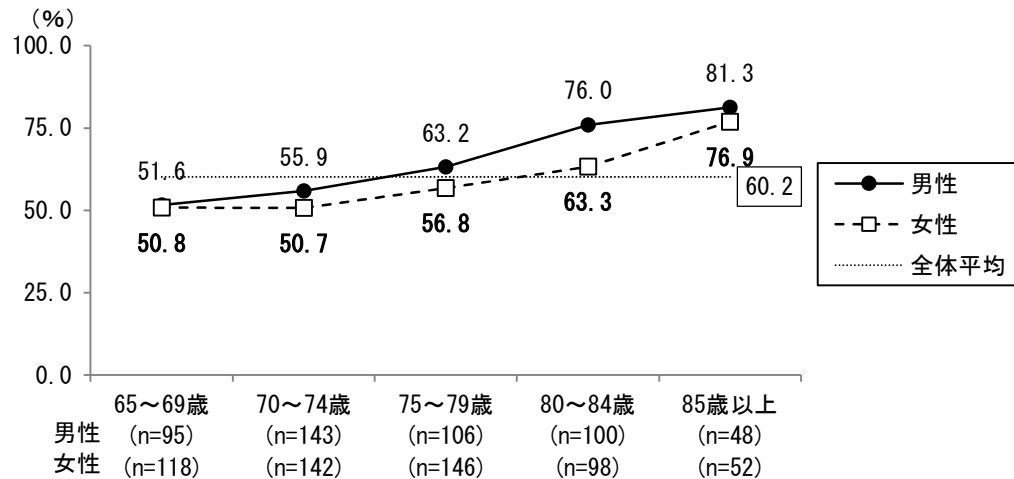


表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

（3問中1問以上に該当した場合に認知機能低下の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問5-4①	もの忘れが多いと感じますか	「はい」
問5-4②	自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか	「いいえ」
問5-4③	今日が何月何日かわからないときがありますか	「はい」

(6) うつ傾向のリスク

うつ傾向の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で41.3%となっています。

性・年齢別でみると、79歳以下までは男女に大きな差はみられませんが、男性は85歳以上で54.2%と最も高く、女性より13.8ポイント高くなっています。一方、女性は80～84歳で50.0%と最も高く、男性より9.0ポイント高くなっています。

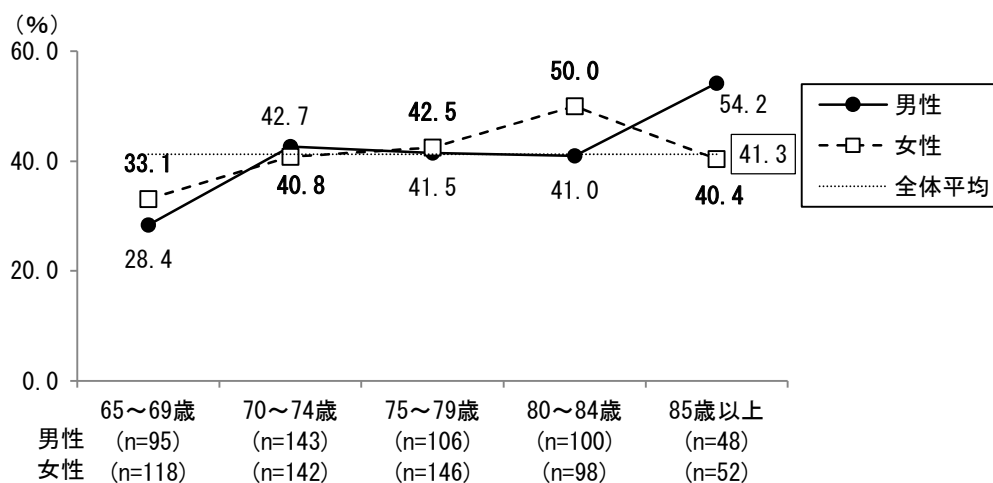


表 うつ傾向に関する設問（基本チェックリスト）

（2問中1問以上に該当した場合にうつ傾向の「リスクあり」に該当）

問番号	設問	該当する選択肢
問8-6 (1)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「はい」
問8-6 (2)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「はい」

(7) 手段的自立度 (IADL)

4点以下を「低下者」とした評価結果をみると、手段的自立度の「低下者」に該当する人の割合は全体平均で23.7%となっています。

性・年齢別でみると、84歳以下までは女性より男性のほうが高くなっていますが、85歳以上になると、女性は大幅に上昇し、男性より17.7ポイント高くなっています。

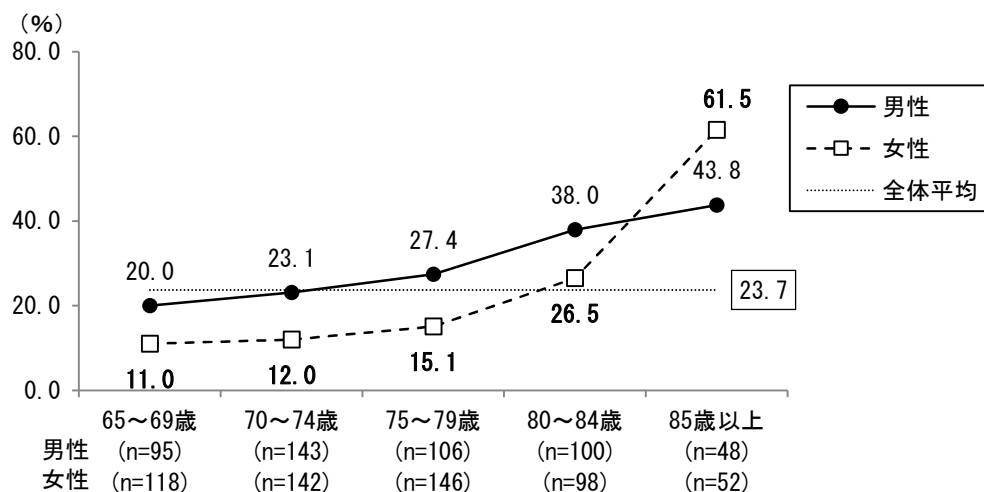


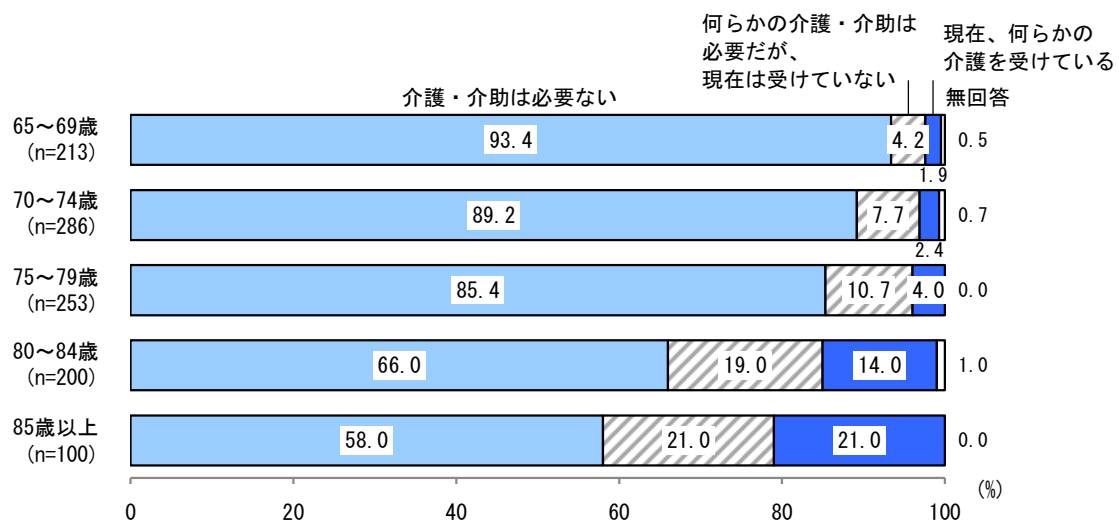
表 手段的自立度に関する設問（老研指標）

（下記の各設問（各1点、5点満点）に対して、4点以下を「低下者」とする）

問番号	設問	該当する選択肢
問5-1①	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」 「できるけどしていない」 を1点とした各問の合計
問5-1②	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	
問5-1③	自分で食事の用意をしていますか	
問5-1④	自分で請求書の支払いをしていますか	
問5-1⑤	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

(8) 介護・介助の必要性の有無

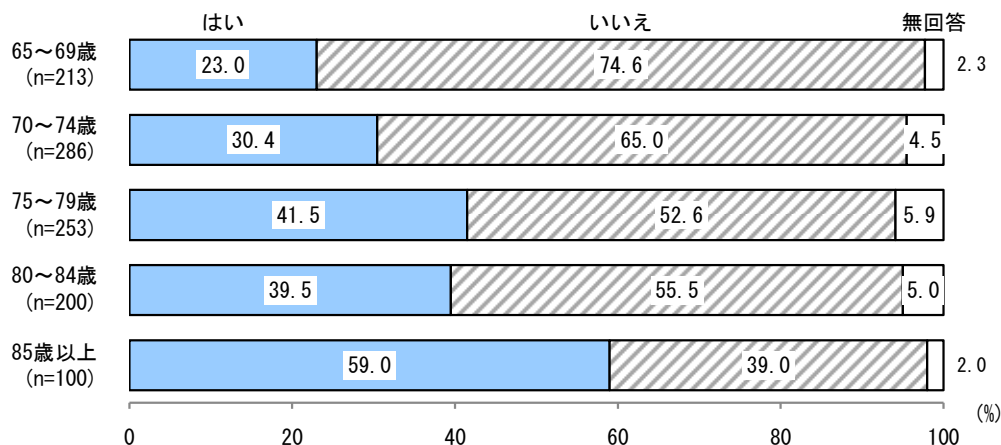
介護・介助の必要性については、年齢別でみると、介護・介助を必要とする割合は、高齢になるほど高くなっています。なお、85歳以上では「現在、何らかの介護を受けている」が21.0%と高い割合になっています。



3. 外出について

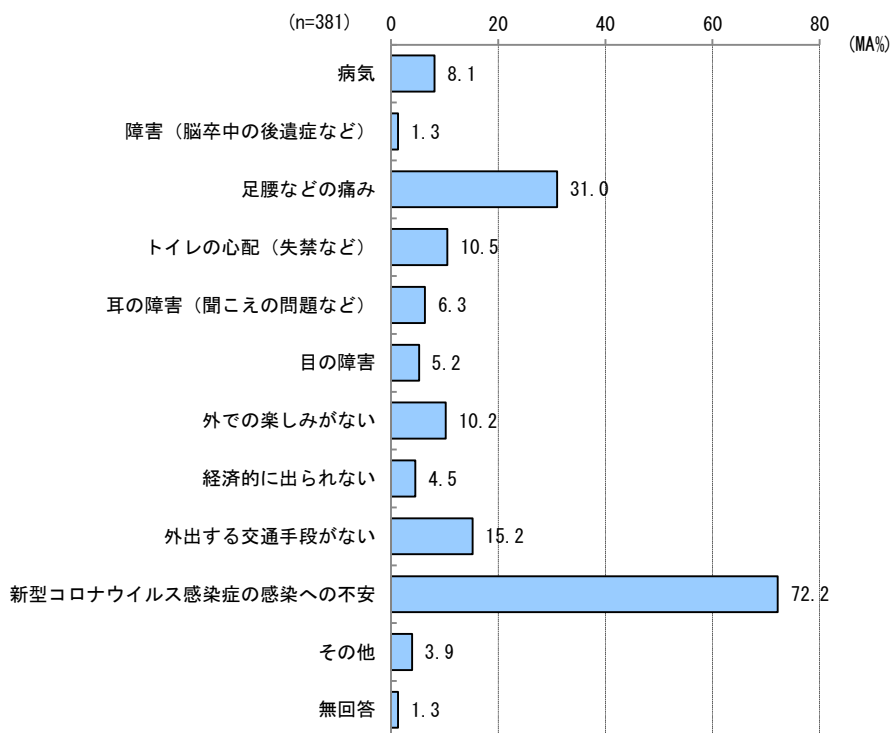
(1) 外出控えの状況

外出を控えているかについては、年齢別でみると、65～69歳で「はい」が23.0%に対し、85歳以上では59.0%と高くなっています。



(2) 外出を控えている理由

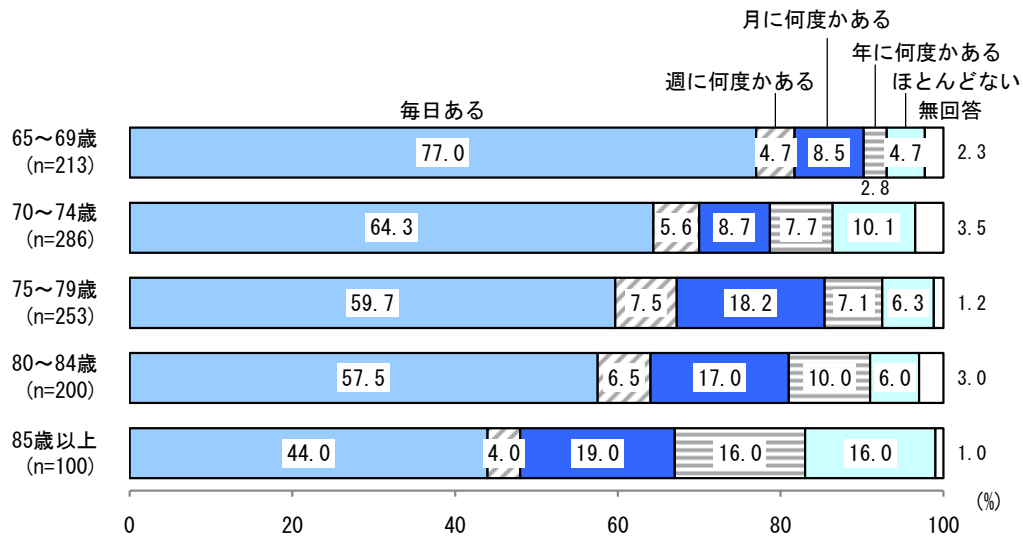
外出を控えていると回答した人に、理由をたずねたところ、「新型コロナウイルス感染症の感染への不安」が72.2%で最も多く、次いで「足腰などの痛み」が31.0%、「外出する交通手段がない」が15.2%となっています。



4. 食べることやお口の状態について

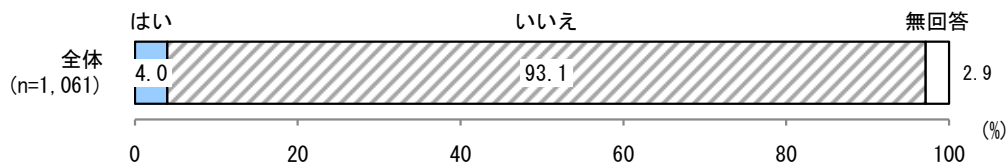
(1) 共食頻度

食事をともにする機会の頻度については、年齢別でみると、高齢になるほど「毎日ある」の割合は低くなっています。



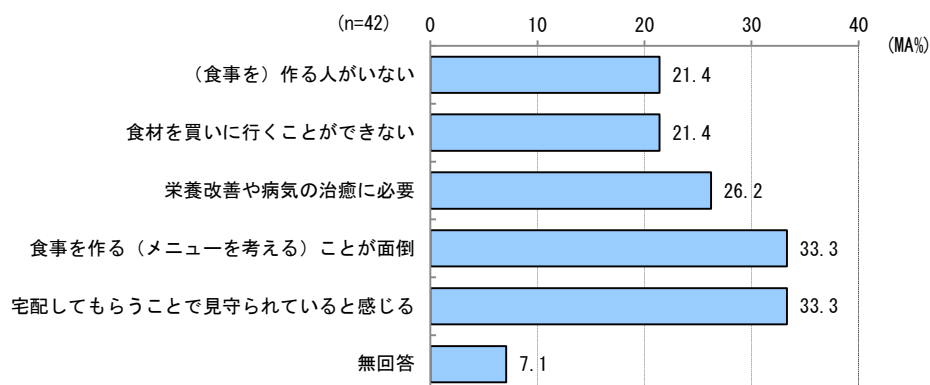
(2) 配食サービスや食材宅配サービスなどの利用有無【独自質問】

配食サービスや食材宅配サービスなどを利用しているかについては、「はい」が4.0%、「いいえ」が93.1%となっています。



(3) 配食サービスや食材宅配サービスなどを利用する理由【独自質問】

配食サービスや食材宅配サービスなどを利用していると回答した人に、利用している理由をたずねたところ、「食事を作る（メニューを考える）ことが面倒」と「宅配してもらうことで見守られていると感じる」がともに33.3%で最も多くなっています。



5. 毎日の生活について

(1) 知的能動性（老研式活動能力指標）

3点以下を「低下者」とした評価結果をみると、知的能動性の「低下者」に該当する人の割合は全体平均で46.0%となっています。

性・年齢別でみると、高齢になるほど「低下者」の割合は高い傾向にあります。また、男性は80歳以降で、女性は85歳以上で5割を超えています。

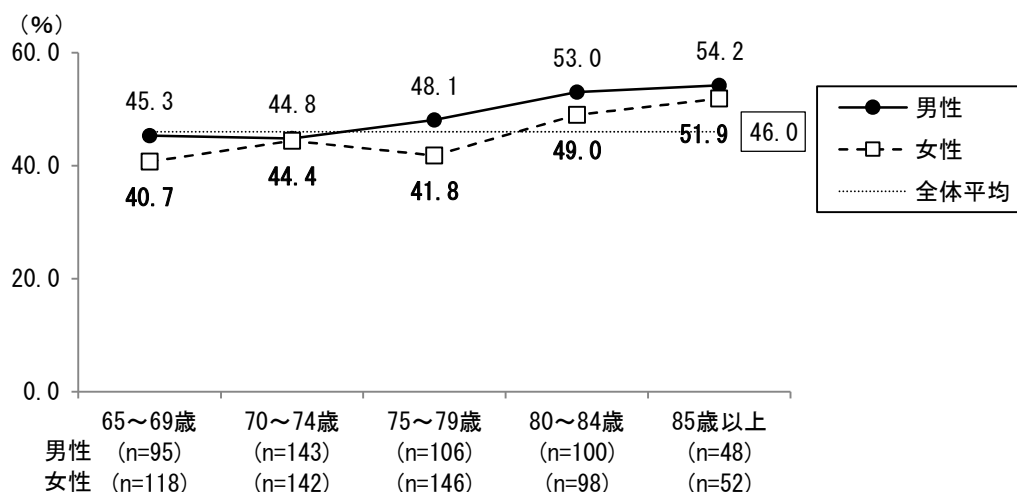


表 知的能動性に関する設問（老研指標）

（下記の各設問（各1点、4点満点）に対して、3点以下を「低下者」とする）

問番号	設問	該当する選択肢
問5-2①	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」を1点とした 各問の合計
問5-2②	新聞を読んでいますか	
問5-2③	本や雑誌を読んでいますか	
問5-2④	健康についての記事や番組に関心がありますか	

(2) 社会的役割（老研式活動能力指標）

3点以下を「低下者」とした評価結果をみると、社会的役割の「低下者」に該当する人の割合は全体平均で65.2%となっています。

性・年齢別でみると、男性は80～84歳を除いて女性より割合が高く、70～74歳（74.8%）では、女性（53.5%）より21.3ポイント高くなっています。

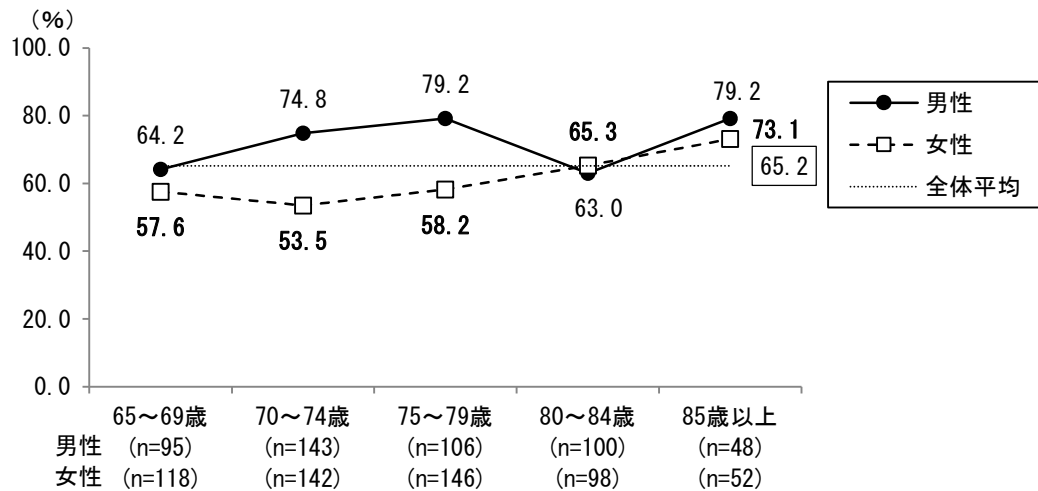


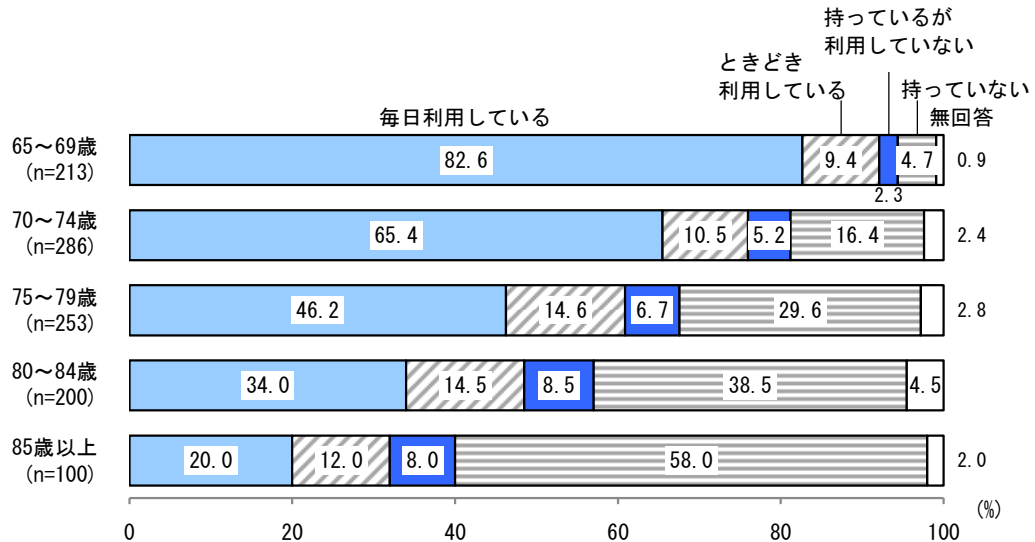
表 社会的役割に関する設問（老研指標）

（下記の各設問（各1点、4点満点）に対して、3点以下を「低下者」とする）

問番号	設問	該当する選択肢
問5-3①	友人の家を訪ねていますか	「はい」を1点とした 各問の合計
問5-3②	家族や友人の相談にのっていますか	
問5-3③	病人を見舞うことができますか	
問5-3④	若い人に自分から話しかけることがありますか	

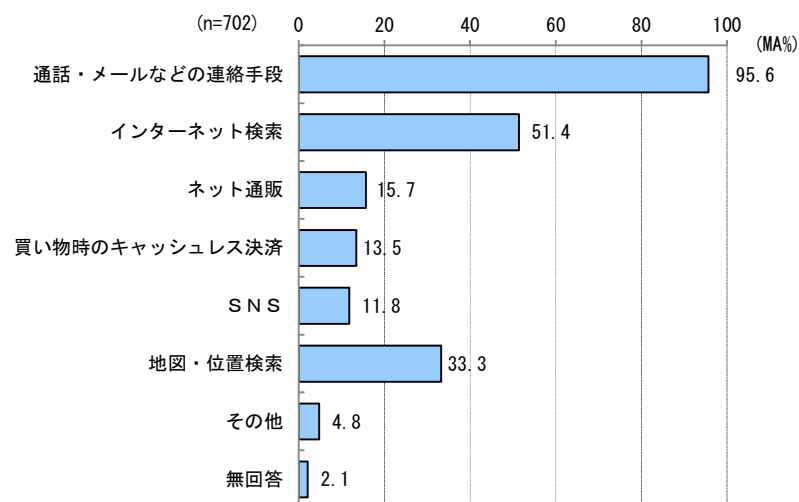
(3) スマートフォンやタブレットなどの利用状況【独自質問】

日常生活でスマートフォンやタブレットなどを利用しているかについては、年齢別でみると、85歳以上で「持っていない」が58.0%と過半数を占めています。また、65～69歳で「毎日利用している」が82.6%と高くなっています。



(4) スマートフォンやタブレットなどの活用状況【独自質問】

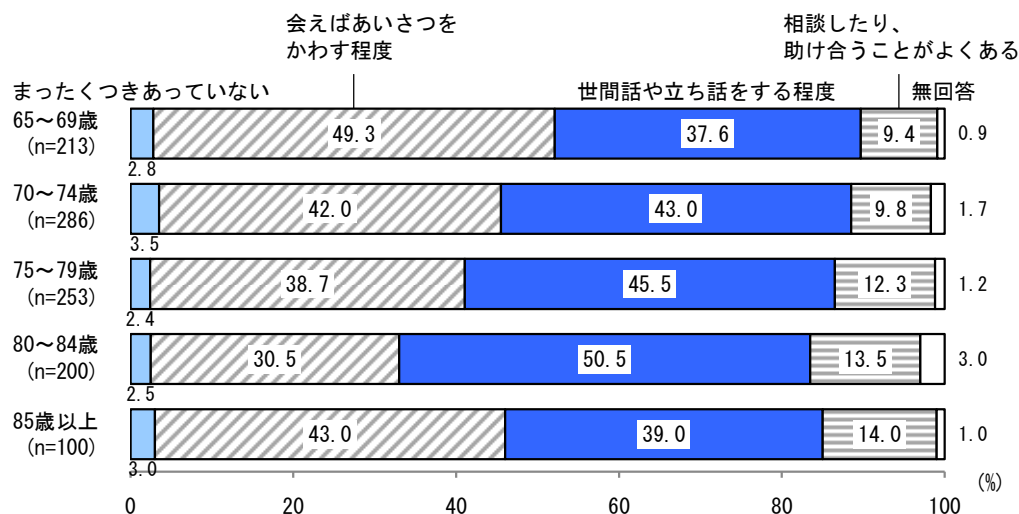
スマートフォンやタブレットなどを利用していると回答した人に、どのようなことに利用しているかをたずねたところ、「通話・メールなどの連絡手段」が95.6%で最も多く、次いで「インターネット検索」が51.4%、「地図・位置検索」が33.3%となっています。



6. お住まいの地域について

(1) 近所の人との付き合いの程度

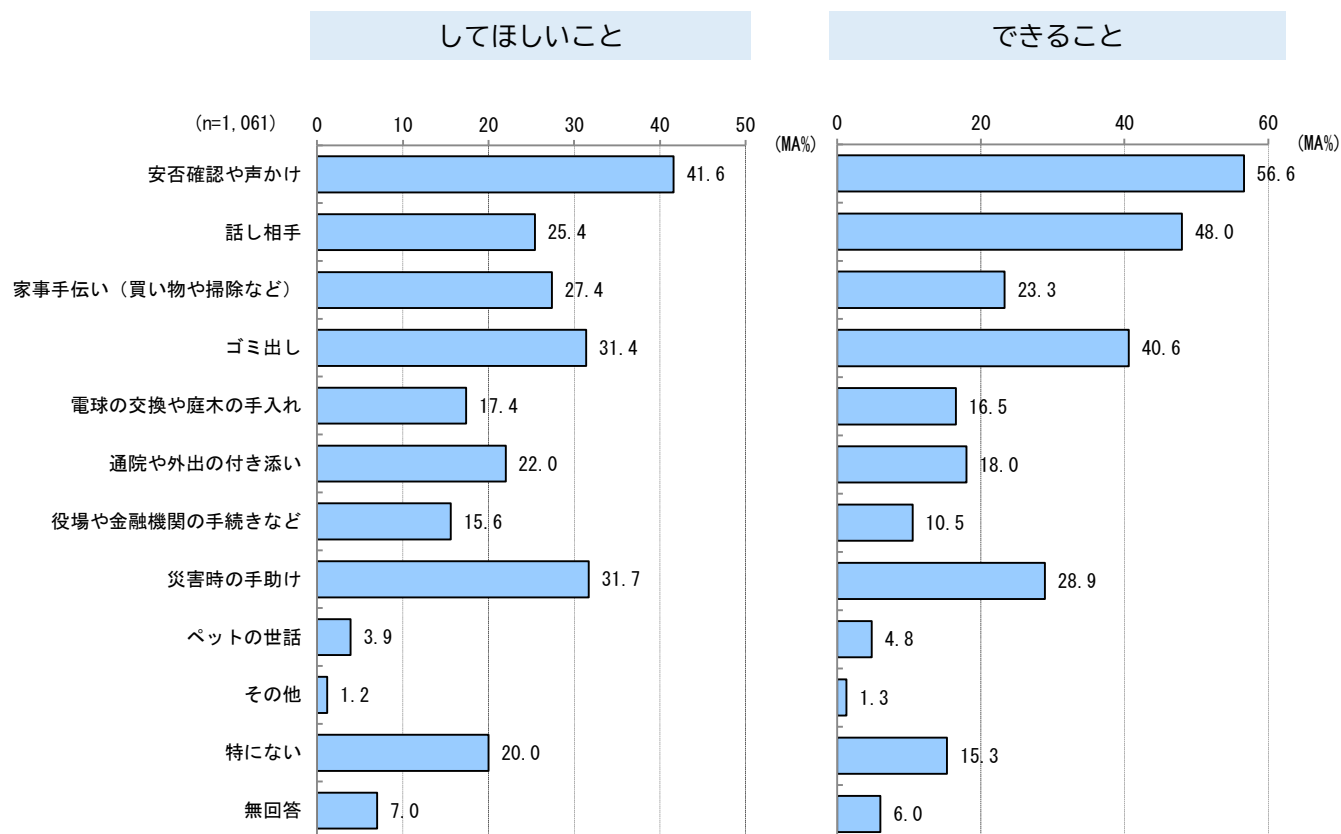
近所の人との付き合いの程度については、高齢になるほど「相談したり、助け合うことがよくある」の割合が高くなっています。



(2) 近所や地域での支援

日常生活が不自由になったとき、近所や地域にして欲しいことについては、「安否確認や声かけ」が41.6%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が31.7%、「ゴミ出し」が31.4%となっています。

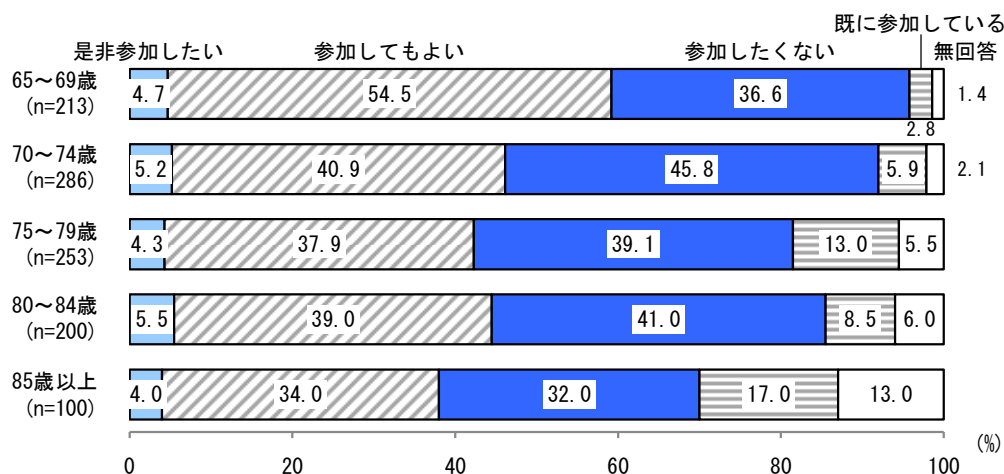
近所で困っている人や家庭に、あなたができることについては、「安否確認や声かけ」が56.6%で最も多く、次いで「話し相手」が48.0%、「ゴミ出し」が40.6%となっています。



7. 生きがいや地域活動について

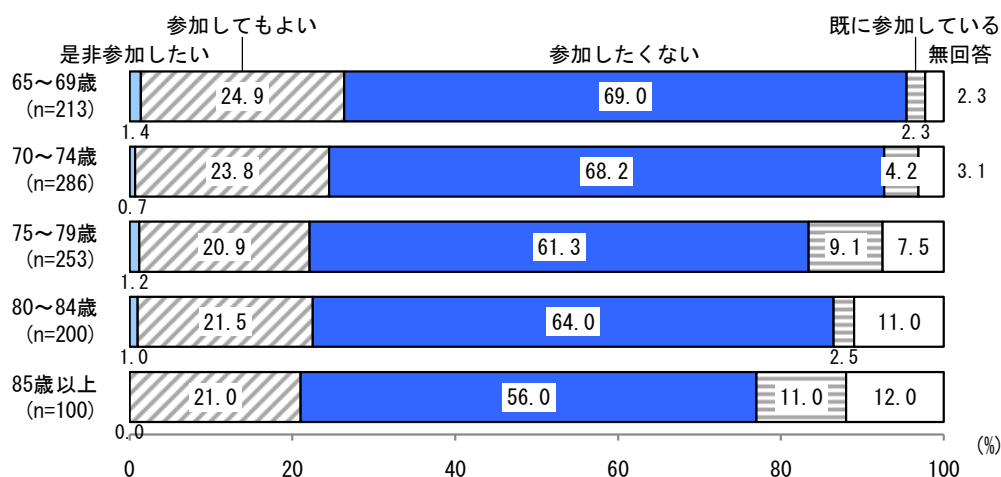
(1) 参加者としての参加意向

健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加意向あり』が、65～69歳で59.2%と高くなっています。



(2) 企画・運営（お世話役）としての参加意向

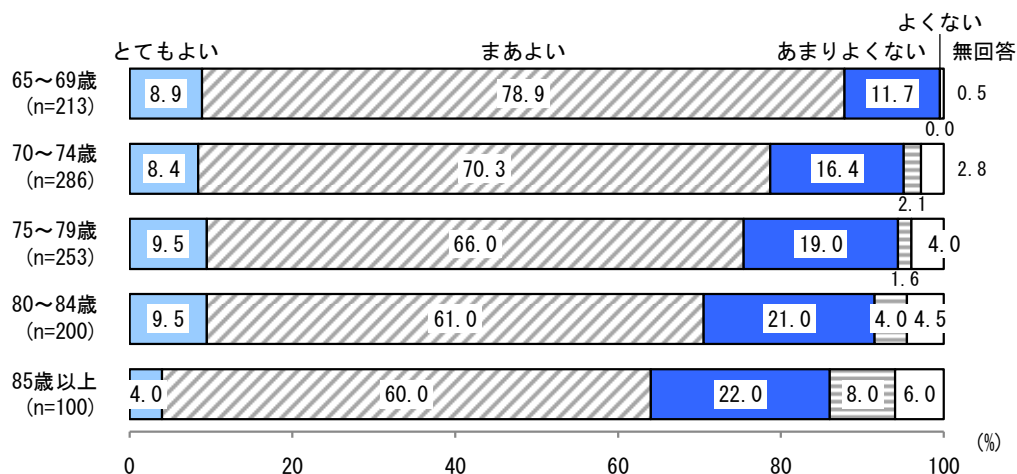
健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向については、いずれの年代も『参加意向あり』割合は2割台となっています。



8. 健康や介護予防について

(1) 主観的健康観

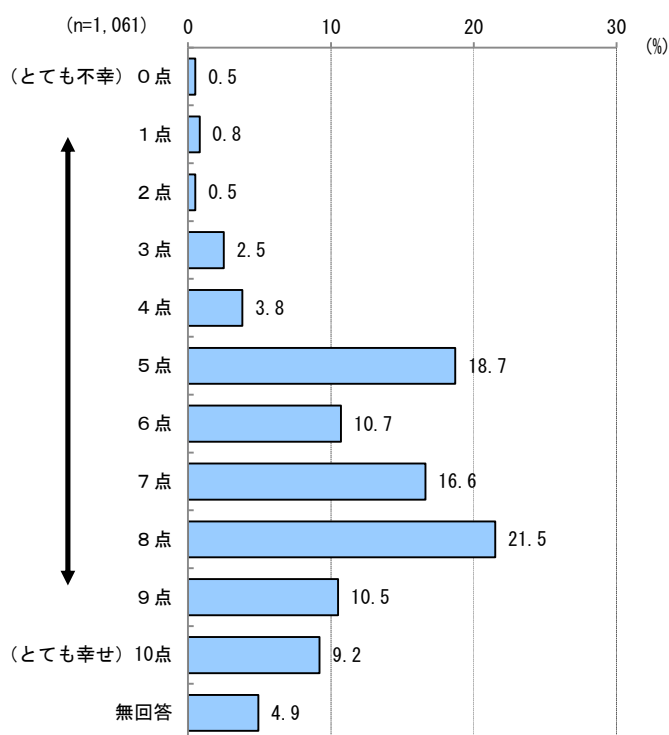
現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』割合はいずれの年代も6割以上となっていますが、高齢になるほど低くなっています。



(2) 幸福度

幸福度については、「8点」が21.5%で最も多く、次いで「5点」が18.7%、「7点」が16.6%となっており『5点以上』の割合は87.2%となっています。また、平均は6.9点となっています。

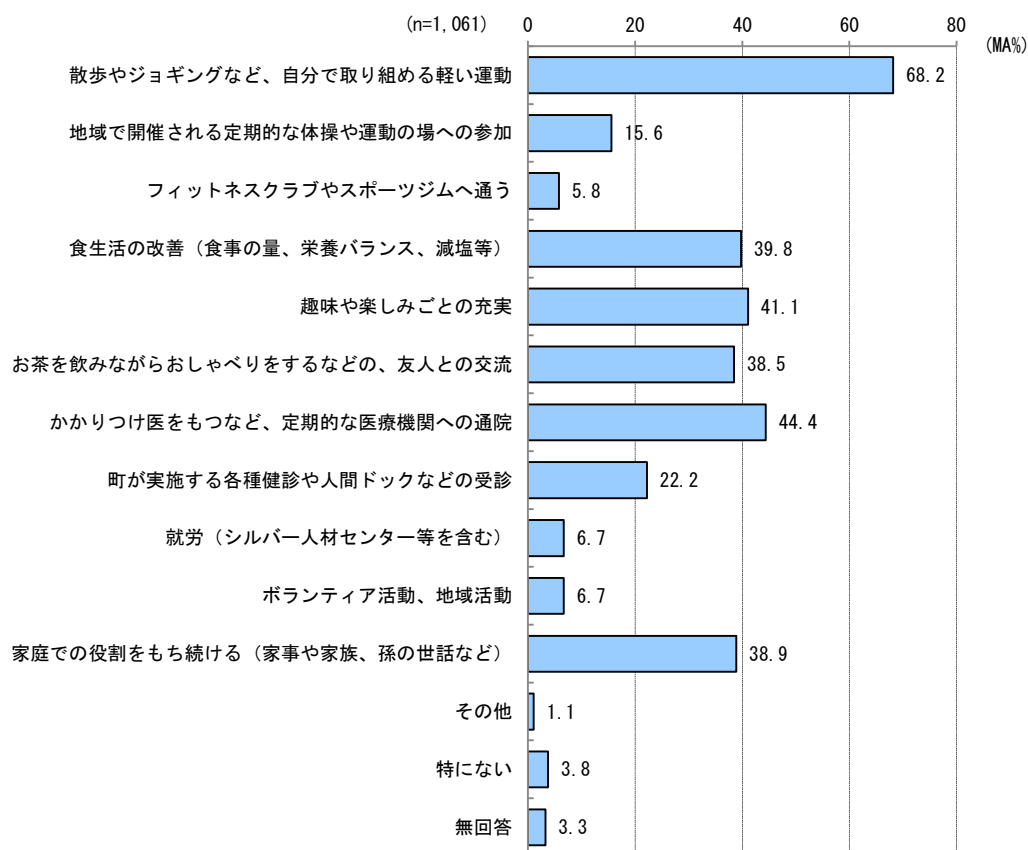
年齢別でみると、平均は65～69歳で7.24点と最も高くなっています。



	平均 (点)
全 体	6.90
65～69歳	7.24
70～74歳	6.69
75～79歳	6.89
80～84歳	6.84
85歳以上	6.84

(3) いつまでも健康に長生きできるよう、取り組んでみたいこと

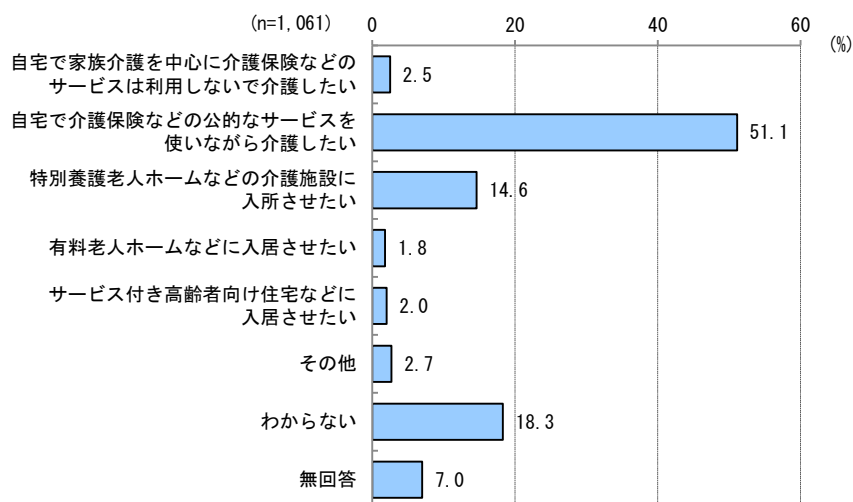
いつまでも健康に長生きできるよう、取り組んでみたいことについては、「散歩やジョギングなど、自分で取り組める軽い運動」が68.2%で最も多く、次いで「かかりつけ医をもつなど、定期的な医療機関への通院」が44.4%、「趣味や楽しみごとの充実」が41.1%となっています。



9. 介護が必要になったときの過ごし方などについて

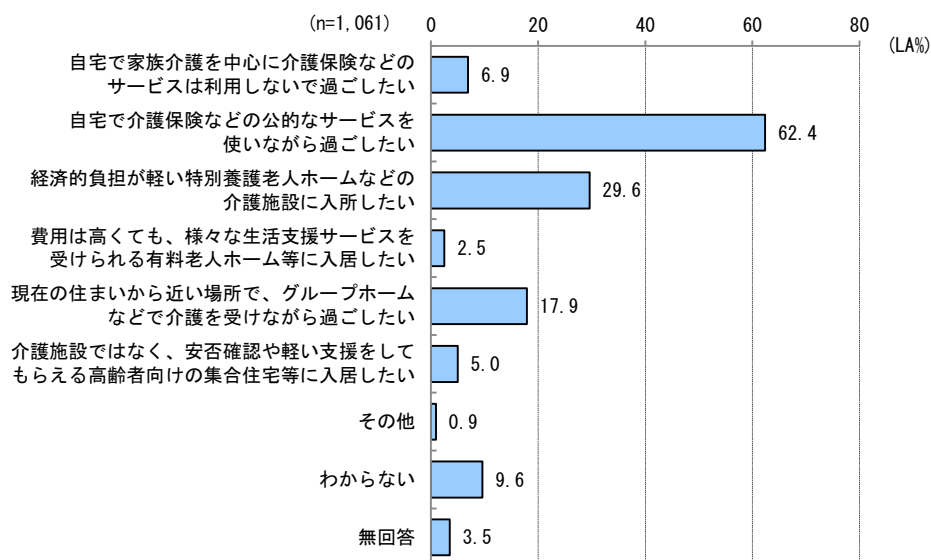
(1) 家族を介護する際に希望すること

家族を介護する際に希望することについては、「自宅で介護保険などの公的なサービスを使いながら介護したい」が51.1%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設に入所させたい」が14.6%となっています。一方で「わからない」は18.3%となっています。



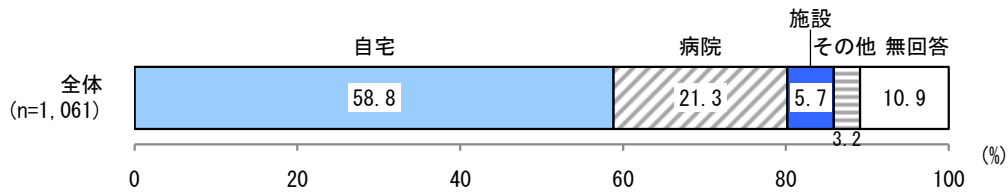
(2) 今後、介護を受けることになった場合に希望すること

今後、介護を受けることになった場合の希望する過ごし方については、「自宅で介護保険などの公的なサービスを使いながら過ごしたい」が62.4%で最も多く、次いで「経済的負担が軽い特別養護老人ホームなどの介護施設に入所したい」が29.6%、「現在の住まいから近い場所で、グループホームなどで介護を受けながら過ごしたい」が17.9%となっています。



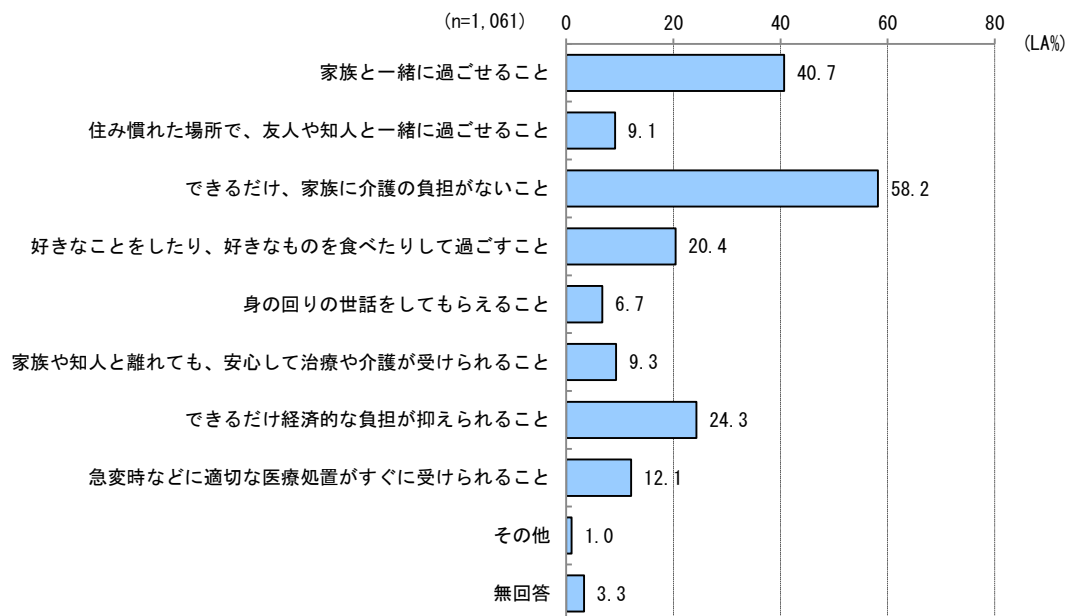
(3) 最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所については、「自宅」が58.8%、「病院」が21.3%、「施設」が5.7%となっています。



(4) 最期を過ごすにあたって、大切にしたいこと

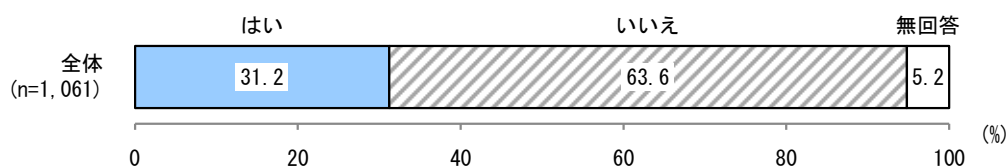
最期を過ごすにあたって、大切にしたいことは、「できるだけ、家族に介護の負担がないこと」が58.2%で最も多く、次いで「家族と一緒に過ごせること」が40.7%、「できるだけ経済的な負担が抑えられること」が24.3%となっています。



10. 認知症の適切な理解について

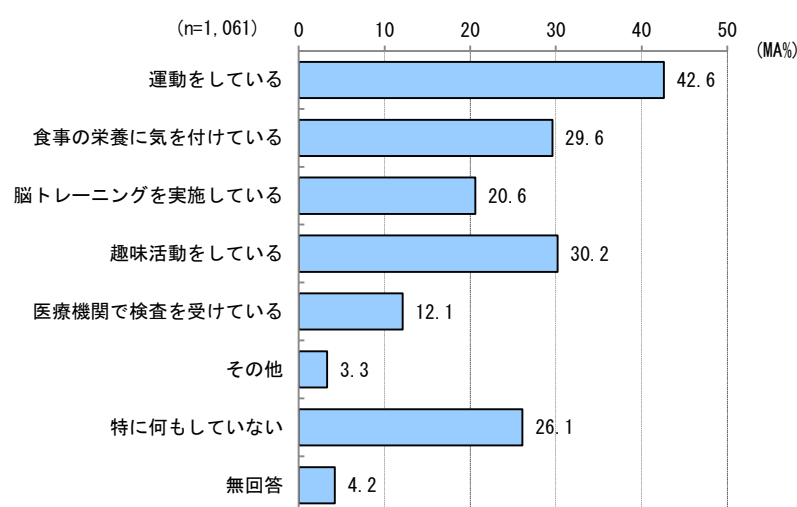
(1) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度については、「はい」が31.2%、「いいえ」が63.6%となっています。



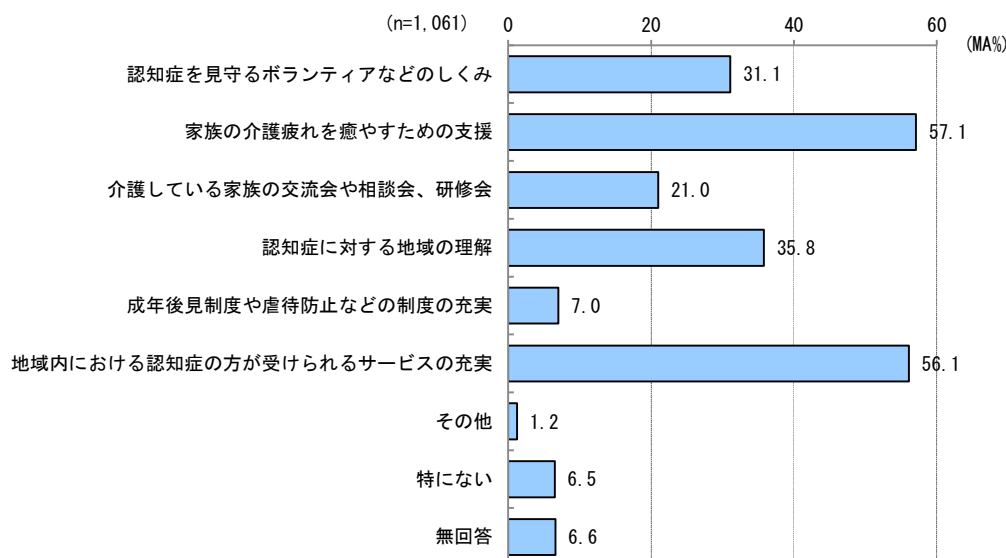
(2) 認知症予防のためにしていること

認知症予防のためにしていることについては、「運動をしている」が42.6%で最も多く、次いで「趣味活動をしている」が30.2%、「食事の栄養に気を付けている」が29.6%となっています。一方で「特に何もしていない」は26.1%となっています。



(3) 認知症になった場合に地域であるとよい支援

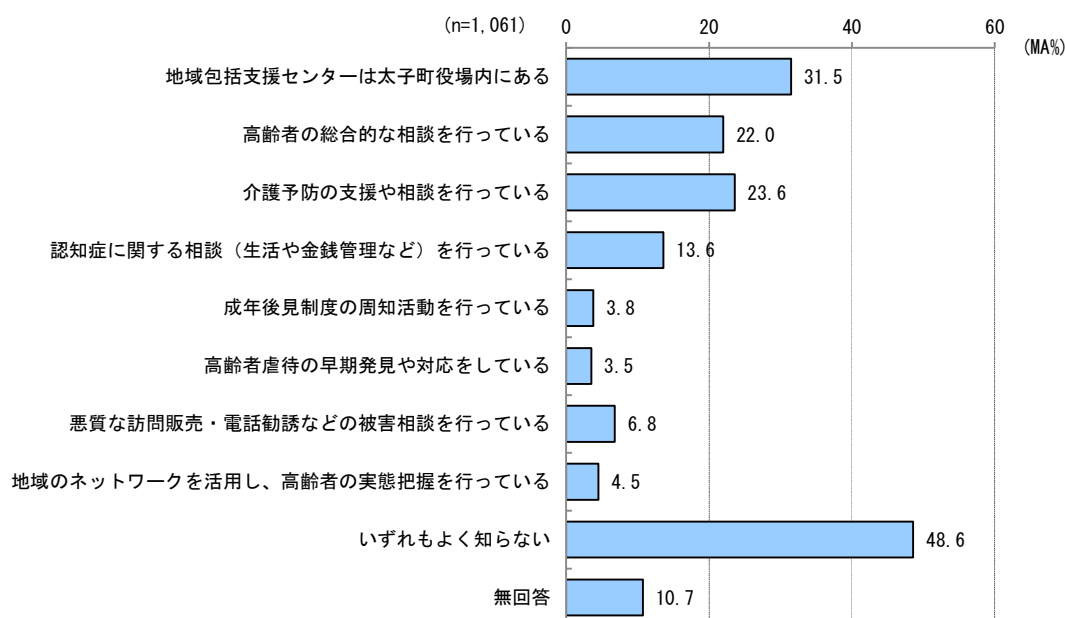
自身や家族が認知症になった場合に地域であるとよいと思う支援については、「家族の介護疲れを癒すための支援」が57.1%で最も多く、次いで「地域内における認知症の方が受けられるサービスの充実」が56.1%、「認知症に対する地域の理解」が35.8%、「認知症を見守るボランティアなどのしくみ」が31.1%となっています。



11. 介護保険制度や高齢者福祉施策全般について

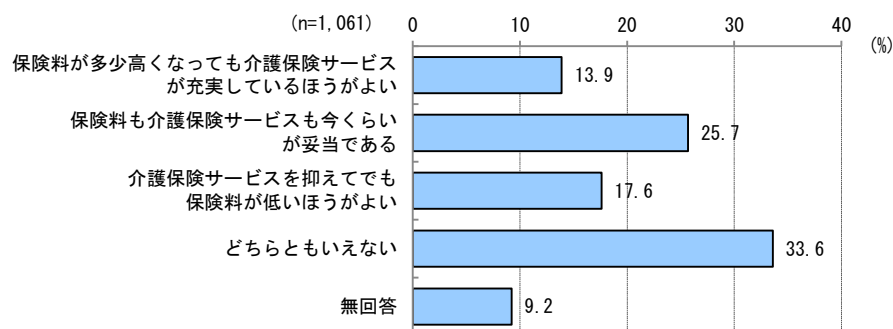
(1) 地域包括支援センターの役割や機能の認知状況

地域包括支援センターの役割や機能の認知状況については、「地域包括支援センターは太子町役場内にある」が31.5%で最も多く、次いで「介護予防の支援や相談を行っている」が23.6%、「高齢者の総合的な相談を行っている」が22.0%となっています。一方で「いずれもよく知らない」は48.6%と半数近くを占めています。



(2) 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方

今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方については、「どちらともいえない」が33.6%で最も多く、次いで「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」が25.7%、「介護保険サービスを抑えてでも保険料が低いほうがよい」が17.6%、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実しているほうがよい」が13.9%となっています。

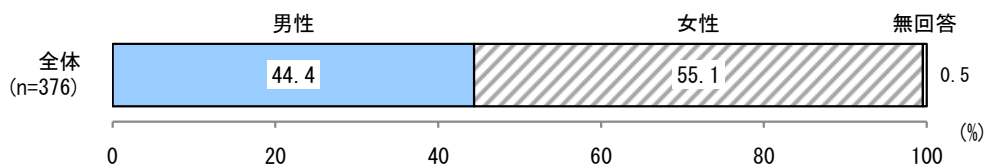


Ⅲ 在宅介護実態調査

1. 回答者の基本属性

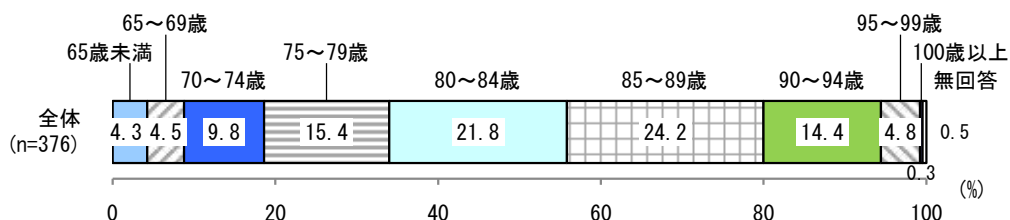
(1) 性別

性別は、「男性」が44.4%、「女性」が55.1%となっています。



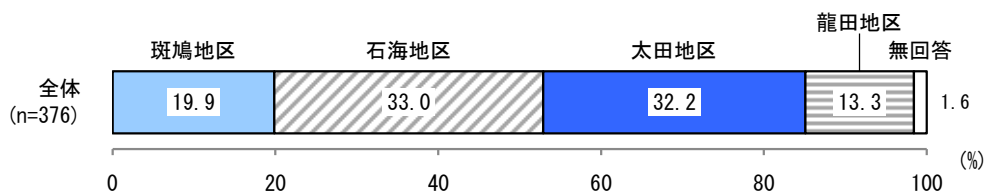
(2) 年齢

年齢は、「85～89歳」が24.2%で最も多く、次いで「80～84歳」が21.8%、「75～79歳」が15.4%、「90～94歳」が14.4%となっています。



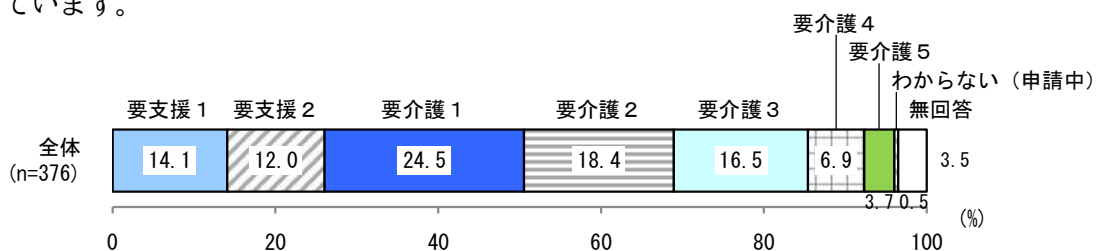
(3) 居住地区

居住地区は、「石海地区」が33.0%で最も多く、次いで「太田地区」が32.2%、「斑鳩地区」が19.9%、「龍田地区」が13.3%となっています。



(4) 要介護度

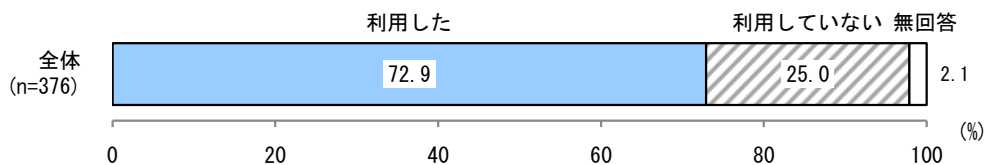
要介護度は、「要介護1」が24.5%で最も多く、次いで「要介護2」が18.4%、「要介護3」が16.5%となっています。



2. 介護サービス等の利用状況等について

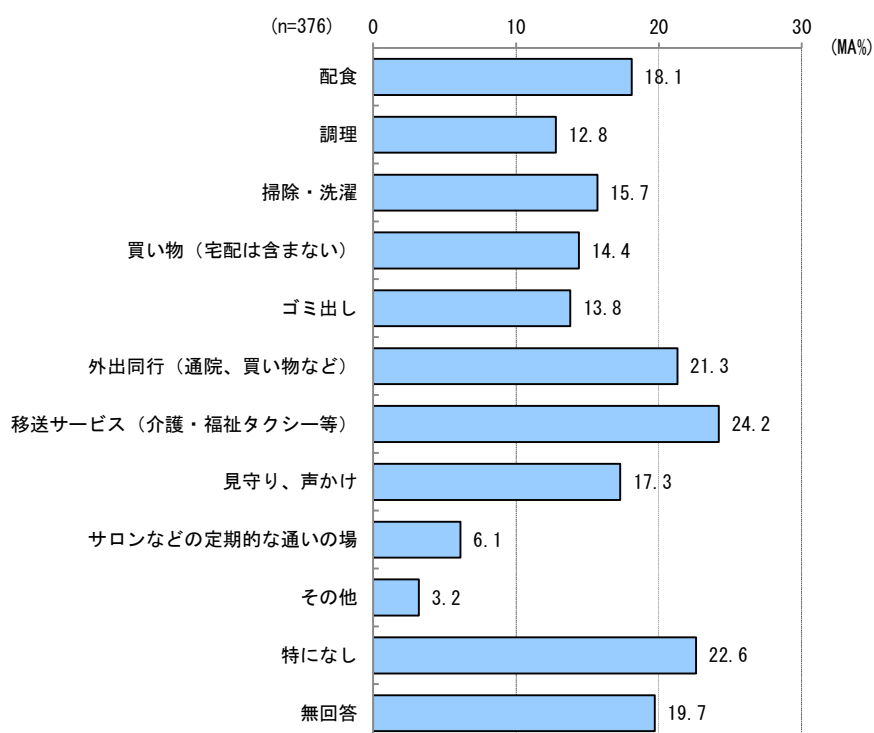
(1) 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービス利用状況

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用したかについては、「利用した」が72.9%、「利用していない」が25.0%となっています。



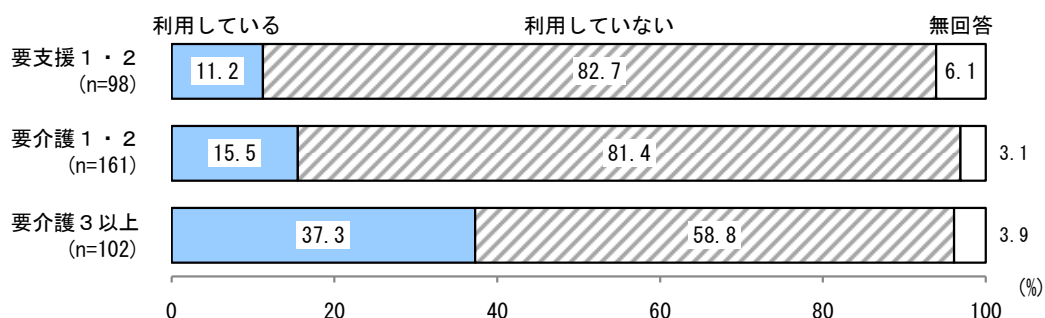
(2) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.2%で最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が21.3%、「配食」が18.1%となっています。



(3) 医療保険による訪問診療

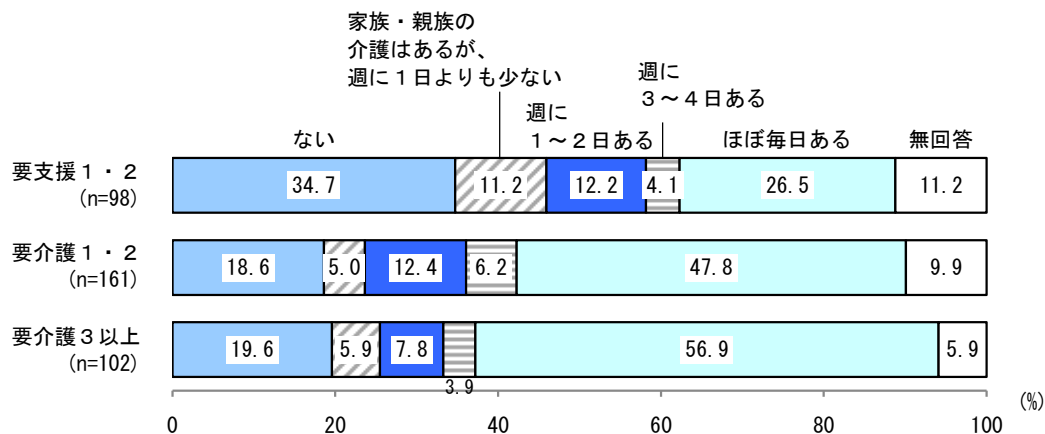
医療保険による訪問診療を利用しているかについては、要介護度別でみると、重度になるほど「利用している」割合は高く、要介護3以上で37.3%となっています。



3. 家族や親族による介護状況について

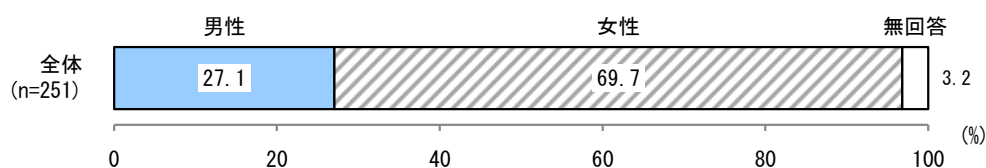
(1) 介護の頻度

家族や親族の方からの介護の頻度については、要介護度別でみると、重度になるほど「ほぼ毎日ある」割合は高く、要介護3以上では56.9%と過半数を占めています。



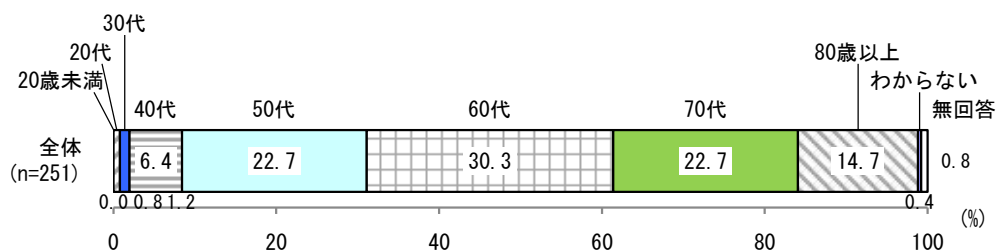
(2) 主な介護者の性別

家族・親族の方からの介護があると回答した人に、主な介護者の性別をたずねたところ、「男性」が27.1%、「女性」が69.7%となっています。



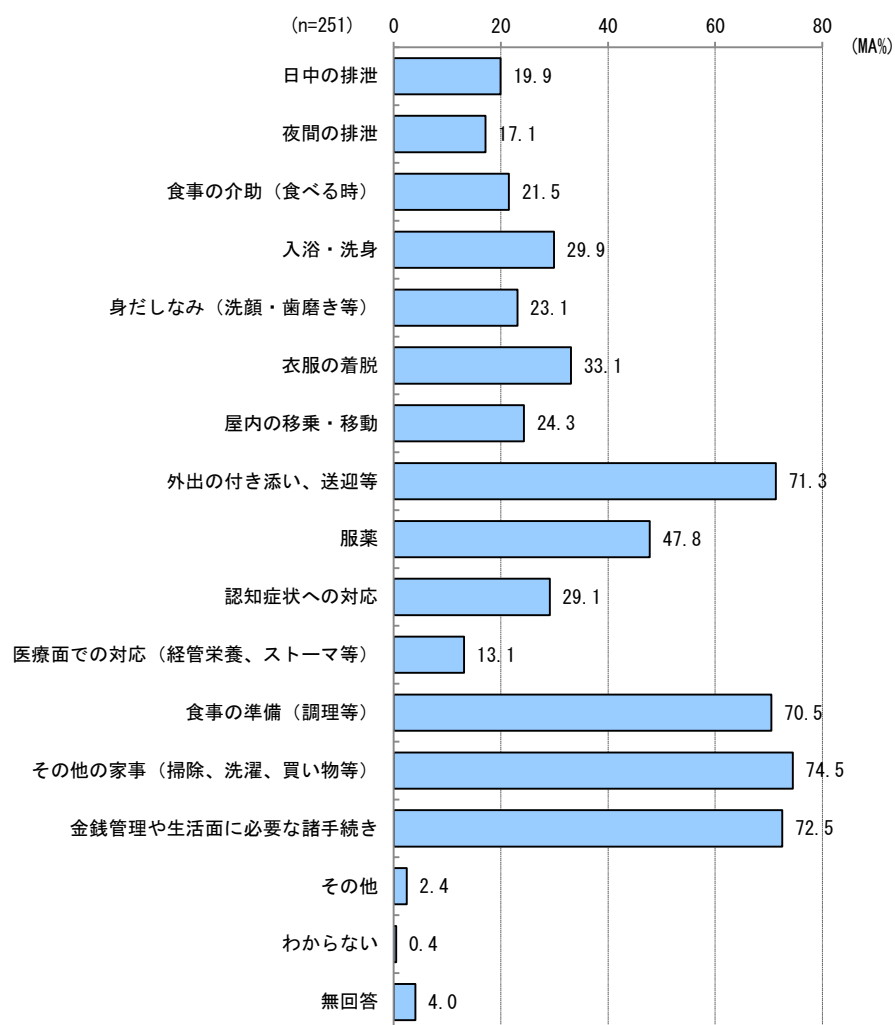
(3) 主な介護者の年齢

家族・親族の方からの介護があると回答した人に、主な介護者の年齢をたずねたところ、「60代」が30.3%で最も多く、次いで「50代」「70代」がともに22.7%、「80歳以上」が14.7%となっています。



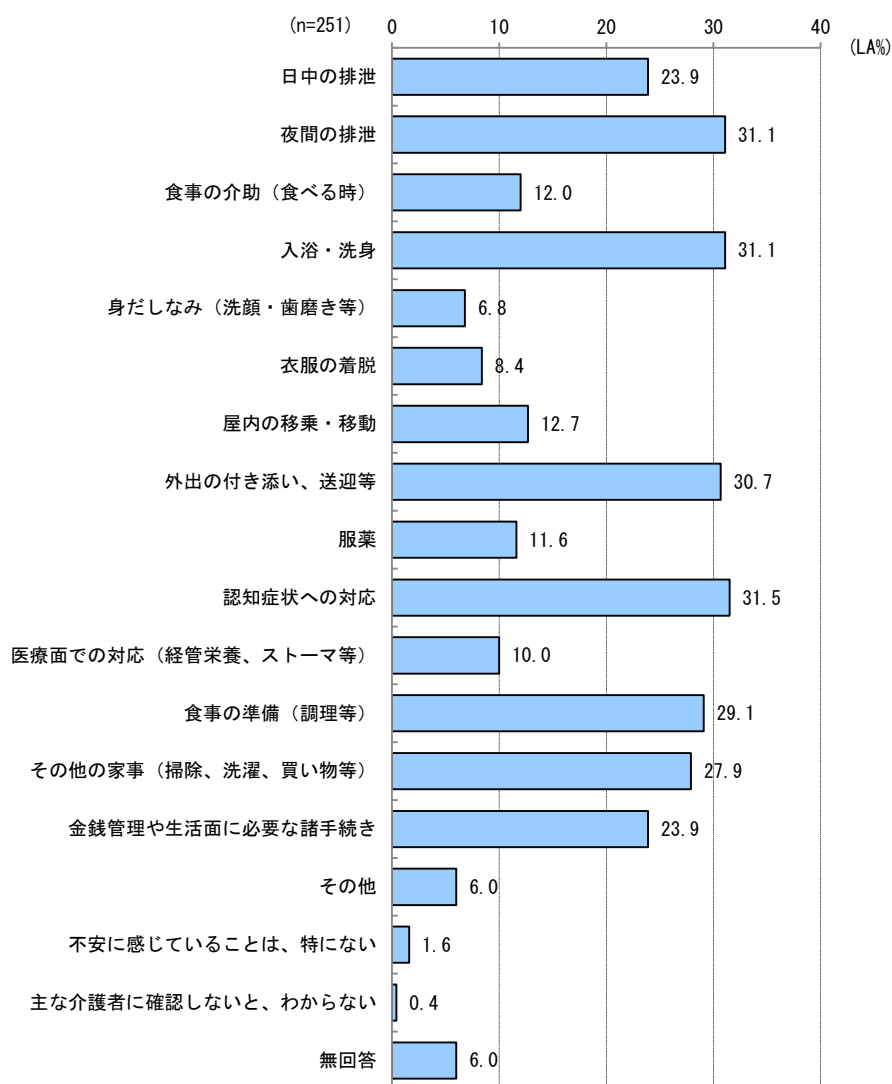
(4) 主な介護者が行っている介護

家族・親族の方からの介護があると回答した人に、主な介護者が行っている介護についてたずねたところ、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が74.5%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が72.5%、「外出の付き添い、送迎等」が71.3%、「食事の準備（調理等）」が70.5%となっています。



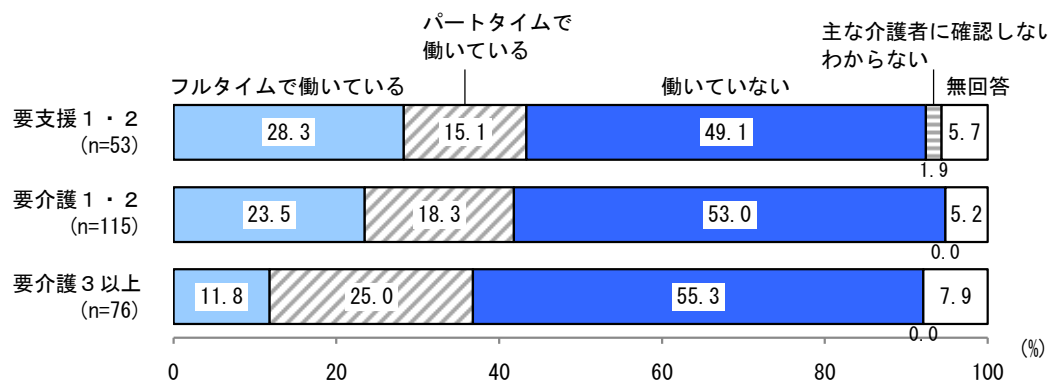
(5) 主な介護者が不安に感じる介護

家族・親族の方からの介護があると回答した人に、主な介護者が不安に感じる介護についてたずねたところ、「認知症状への対応」が31.5%で最も多く、次いで「夜間の排泄」「入浴・洗身」がともに31.1%、「外出の付き添い、送迎等」が30.7%となっています。



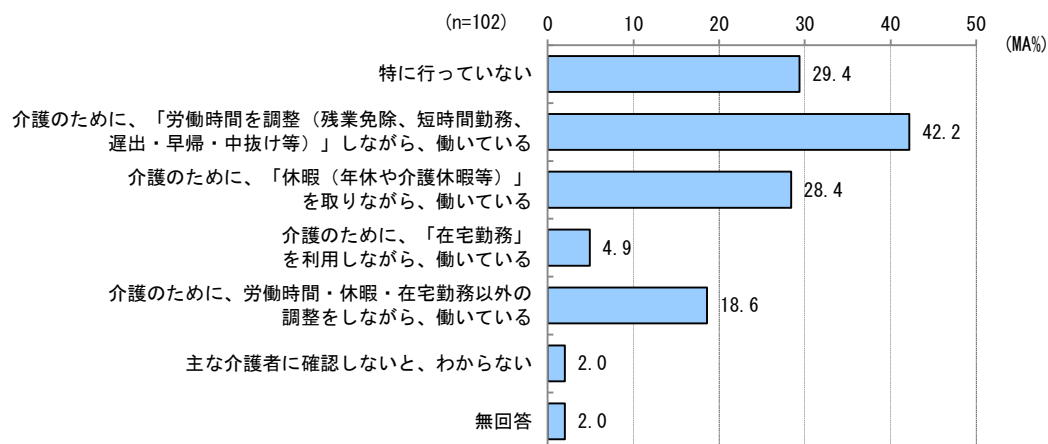
(6) 主な介護者の勤務形態

家族・親族の方からの介護があると回答した人に、主な介護者の勤務形態をたずねたところ、要介護度別でみると、重度になるほど「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は低くなっています。特に、「フルタイムで働いている」割合は要支援1・2、要介護1・2では2割台であるのに対し、要介護3以上では1割台と低くなっています。また、要介護1・2、要介護3以上で「働いていない」が過半数を占めています。



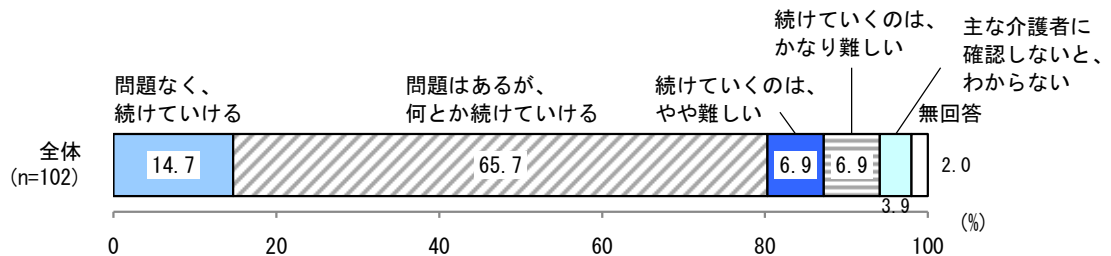
(7) 働き方の調整等の有無

主な介護者がフルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した人に、働き方の調整等の有無についてたずねたところ、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が42.2%で最も多く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が28.4%となっています。なお、「特に行っていない」は29.4%となっています。



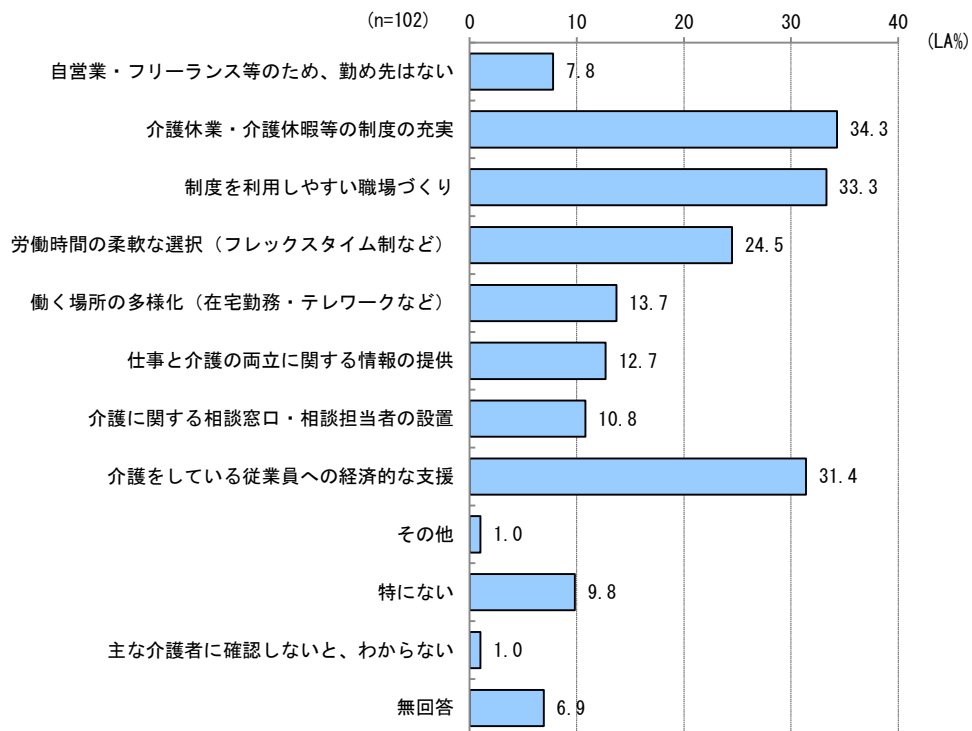
(8) 今後の介護継続意向

主な介護者がフルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した人に、今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が65.7%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が14.7%となっています。



(9) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

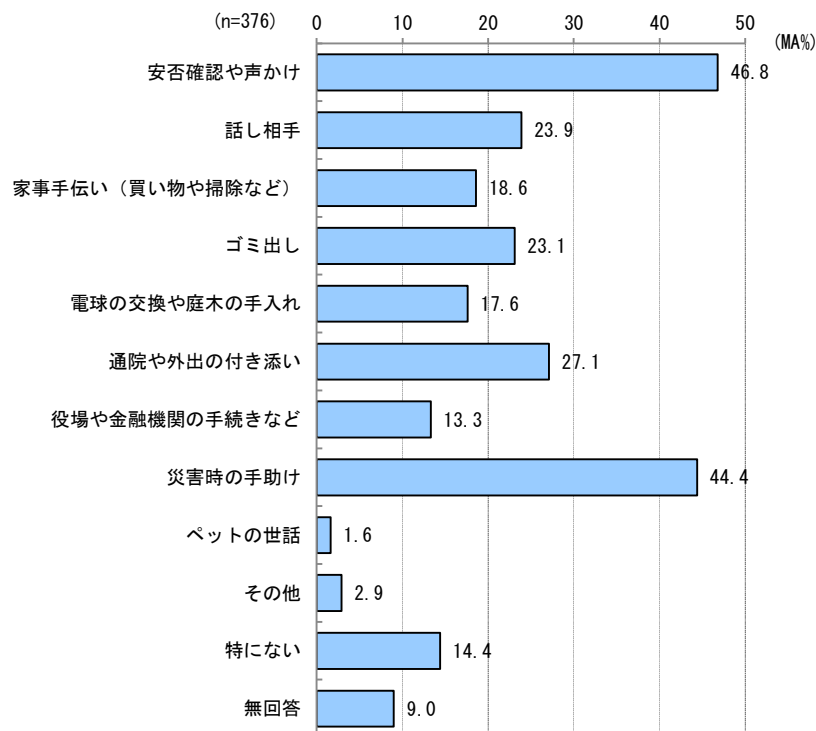
主な介護者がフルタイムまたはパートタイムで働いていると回答した人に、仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援についてたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が34.3%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が33.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が31.4%となっています。



4. 地域におけるあなたの日常生活について

(1) 日常生活が不自由になったときの近所や地域での支援

日常生活が不自由になったとき、近所や地域にして欲しいことについては、「安否確認や声かけ」が46.8%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が44.4%、「通院や外出の付き添い」が27.1%となっています。



(2) 認知症になった場合に地域であるとよい支援

自身や家族が認知症になった場合に地域であるとよいと思う支援については、「家族の介護疲れを癒すための支援」が51.9%で最も多く、次いで「地域内における認知症の方が受けられるサービスの充実」が46.3%、「認知症に対する地域の理解」が38.6%となっています。

